

# 救急基金だより

みなさまの善意が「救急基金」を支えています

- 救急基金の歩み
- 寄附金募集事例紹介
  - ・魚沼市消防本部
  - ・宇和島地区広域事務組合消防本部
- 平成23年度救急基金会計の決算
- 救急基金への寄附について



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団

## 応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、設立当初より15,770名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積立て、その運用益を用いて応急手当講習会

で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

### 事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

<平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

<平成10年度～平成24年度>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

### 寄附金募集事例紹介

## 魚沼市消防本部

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、総面積946.93km<sup>2</sup>、人口約4万人の市です。四季の変化が楽しめる自然豊かな地域で、冬は日本有数の豪雪地帯として知られています。また、魚沼産コシヒカリに代表される良質米の生産地としても有名ですが、それに加えて、市のほとんどが山間地であることから、登山や溪流釣り、スノースポーツなどが楽しめる魅力ある観光地としても知られており、この地を訪れた多くの人々を魅了しています。一方で、広大な面積を抱え、自然の宝庫といわれる中、それに伴う遭難、滑落等の事故や災害も増加しています。こうした事故災害等に対応し、市民の生命及び財産を守るため、日々様々な活動に取り組んでいるのが、魚沼市消防本部です。

民または消防団からの要望に基づいて企画・開催する普通救命講習を平成23年は年間30回ほど実施しています。そのほか講習時間や内容等個々の要望に合わせた一般講習は年間50回以上実施しており、参加者は1,200名ほどです。特に夏休み前にはPTAをはじめプールの監視員の参加が多く、ほぼ毎日予約が入るほどの盛況ぶりだそうです。このように、市民の応急手当に対する関心は非常に高く、魚沼市消防本部の積極的な普及活動の成果が伺われます。

また、講習参加者の皆さんに熱心に取り組んでいただくために、独自に作成した資料を使用する等の工夫も凝らされているとのことですが、特に、この度救急基金から寄贈させていただいた心肺蘇生訓練用的人形を使った講習では、一般の方が普段はなかなか触れる機会がない器材を使用していることから、より一層熱心に取り組んでくださっているようです。もちろん、訓練用的人形の使用は、講習に限らず消防本部の救急隊員の方々にも役立てていただいているとのこと。このような救急基金事業の趣旨を十分にご理解いただいた寄贈資器材の有効なご活用に感謝しつつ、魚沼市消防本部の皆さまの今後のご発展をお祈りいたします。

そうした活動の一環として、魚沼市消防本部では応急手当普及の活動にも積極的に取り組んでおり、本部で企画・開催する上級または普通救命講習を奇数月9日に、一般住



財団法人 救急振興財団  
〒950-8501 新潟県魚沼市魚沼 1-1-1  
TEL: 025-271-1111 FAX: 025-271-1112

## 宇和島地区広域事務組合消防本部

愛媛県の南部に位置する宇和島市と北宇和郡松野町、鬼北町で構成される宇和島地区広域事務組合消防本部は、足摺宇和海国立公園を擁する風光明媚な圏域にあり、その面積は809.95km<sup>2</sup>、総人口100,350人(平成24年4月1日現在)です。

昨年3月には四国横断自動車道が管内まで開通し、各方面とのアクセスが良好となったことから、観光等の産業発展はもちろん、救急業務においても搬送時間が短縮され住民へのサービスが向上されました。しかし、救急車の要請から救急隊が現場に到着するまでに要する時間は、管内の地形的要因により、全国平均8.1分(平成22年中)に比べて管内平均9.5分と1.4分長かかっています。こうした状況の下、救急隊が現場に到着するまでの間に、バイスタンダーによる応急手当が適切に実施できれば大きな救命効果が得られることから、宇和島地区広域事務組合消防本部では、応急手当の普及啓発活動に積極的に取り組んでいます。その成果として、管内の心肺機能停止傷病者への住民による応急手当の実施率が57.1%と、全国平均の42.7%(平成22年中)を大きく上回っています。

応急手当の普及啓発を目的に実施している普通救命講習は、毎月第2日曜日に実施し

ていますが、広く参加を促すために行政が毎月発行する広報誌や新聞の折り込みチラシに参加募集広告を掲載するほか、受講時間の確保が難しい事業所等からの要望に応じて、1時間程度の短時間の救急法指導を実施したり、多様な指導ニーズに対応できるように乳児型・小児型を含めた多くの心肺蘇生訓練用シミュレーターを用意するなど、より多くの方が参加しやすい工夫を凝らしています。参加された方々からは、講習後のアンケートで、「覚えた事を友達にも伝えたい」、「命をつなぐために、一つでも手助けができるようになりたい」など、今後のバイスタンダーとしての活躍が期待される感想が多く寄せられているとのことです。

このような宇和島地区広域事務組合消防本部の応急手当の普及啓発活動への熱心な取り組みに感謝の意を込めつつ、この度、心肺蘇生用訓練人形とAEDトレーナーを救急基金から寄贈させていただきました。応急手当講習の一層の充実のために、存分にご活用いただけると幸いです。



## 皆様の寄附で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた救急基金の運用益にて、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習用DVD
- ・応急手当講習テキスト
- ・AEDトレーナー

を寄贈させていただいております。

これらは、各消防本部に寄贈され、一般住民向けの応急手当の講習会等で活用されています。



\*過去の救急基金だより(No. 1~No. 10)につきましては、救急振興財団のホームページ(<http://www.fasd.or.jp>)の救急基金の項目の中に掲載しています。

■平成23年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
① 特定資産運用収入	2,344	2,244	100
② 寄附金収入	2,000	745	1,255
③ 雑収入	0	1	△ 1
事業活動収入計	4,344	2,990	1,354
2 事業活動支出			
① 事業費支出			
救急基金助成事業費支出	2,344	2,259	85
事業活動支出計	2,344	2,259	85
事業活動収支差額	2,000	731	1,269
II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	2,000	745	1,255
投資活動支出計	2,000	745	1,255
投資活動収支差額	△ 2,000	△ 745	△ 1,255
当期収支差額	0	△ 14	14
前期繰越収支差額	0	3,794	△ 3,794
次期繰越収支差額	0	3,780	△ 3,780
※平成23年度末救急基金残高		180,374千円	

救急基金へのご協力をおねがいたします

お申し込み方法

募金箱

設置場所 消防本部、市役所、病院など

郵便振替

口座番号 00140-4-758214

財団法人救急振興財団

手数料が無料となる専用用紙をお送りいたしますので  
下記にお問い合わせください。

(財)救急振興財団 救急基金担当 TEL 042-675-9931



救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記をお願いいたします。

救急基金だよりNo.11 [編集・発行] 財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6

☎ 042-675-9931

FAX 042-675-9050